

サプライチェーンに於ける 位置情報

サプライチェーンでの標準化

(1) どこまで標準化できたか

基本的な規格は完成した。

- データキャリア : ISO/IEC 18000-3M3、ISO/IEC 18000-6C (RFID) ...
ISO/IEC 18004、ISO/IEC 16022 (2次元シンボル) ...
ISO/IEC 15417、ISO/IEC 16388 (1次元シンボル) ...
- データ構造 : ISO/IEC 15459-1、ISO/IEC 15459-2、ISO/IEC 15459-3
ISO/IEC 15459-4、ISO/IEC 15459-5、ISO/IEC 15459-6 ...
- データ格納方法 : ISO/IEC 15961、ISO/IEC 15962 (RFID) ...
ISO/IEC 15418、ISO/IEC 15434 (1次元/2次元シンボル) ...
- アプリケーション : ISO 17363-ISO17367 (RFID)
ISO 28219、ISO 22742、ISO 15394 (1次元/2次元シンボル)

(2) 問題は何か？

- a) RFタグにISO/IEC 15459で規定するデータが格納できない。
- b) アプリケーションでRFIDと1次元/2次元シンボルとのホストへの転送データ構造が一致しない。
- c) オープンな位置コードが標準化されていない。
- d) インターモーダルなサプライチェーン規格がない。

サプライチェーンでの標準化

(3) 残された課題は？

1) サプライチェーン全体を統括する規格。

⇒ アプリケーションプロファイル標準化 (ISO TC204)

2) 複数データキャリアの使用に対する整合性確保。

⇒ サプライチェーンの階層を横断的に利用するためのデータキャリア標準化 (ISO TC122)

3) サプライチェーンにおける位置コードの利用。

⇒ 世界的に統一(統合)化された位置コードの標準化 (ISO/IEC JTC1 SC31)

ANSI MH10.8における位置コード

- ・平成22年5月に「ANSI MH10.8.2 Data Identifier」に位置を示すデータ識別子「11L, 12L, 13L, 15L」の追加要請あり
- ・位置コードは、一般的にコード参照用の外部データベースが必要で、それが長い間の不満となっており、例えば、郵便コードでさえ目的の位置を探し出すための共通手段がないという状況。従って、位置(緯度・経度・高度)の利用を考える人たちにとって、今回の提案は外部データベースを必要としないシステムが実現でき、位置情報の利用促進が期待される。
- ・位置は緯度、経度、高度を用い、
xnn.nnnnnn / xnnn.nnnnnn / xnnnn
(緯度 / 経度 / 標高)
の形式で表す
- ・南緯及び西経の場合、度数の先頭に「-」を付与して表す。また標高がマイナスとなる場合、先頭に「-」を付与して表す
- ・追加データ識別子は、11L:位置, 12L:出荷先位置, 13L:出荷元位置, 14L:予備, 15L:出荷先者位置, 16 - 19L:予備とする。

ANSI MH10.8における位置コード

例えば、場所Aが、

北緯34度59分48.08秒 (34.996689度)

東経137度00分23.06秒 (137.006406秒)

標高30m であるとすると、位置は

34.996689 / 137.006406 / 30

と表すことができる。

1度 約110,000m

0.1度 11,000m

0.01度 1,100m

0.001度 110m

0.0001度 11m

0.00001度 1.1m

0.000001度 0.11m

緯度・経度を小数点以下6桁で表示すると**0.11mの精度**
で表すことができる

ご清聴、ありがとうございました。